

2013年11月23日、24日と立命館大学校友会の東北応援ツアー福島編に参加いたしました。2011年3月11日の東日本大震災から2年8ヶ月経過していますが、まだまだ風評被害の影響が残っているとの指摘がありました。地元福島の小学校給食でさえ福島産農産物は使用しないとのこと。まだまだ震災の影響は残っているのだと痛感いたしました。あの津波の被害はテレビを通していまだに鮮明に目に焼きついており、福島原子力発電所の建屋爆発を含めた目に見えない放射能の恐怖を思い知らされた自然災害でした。私の住んでいる四国においても近い将来、南海トラフ地震が起きることが想定されるだけに、今回自分の目で東北の現況を見てみたいと思い、ツアーに申し込んだ次第です。初日には、自然村での辛煮に舌鼓を打ちながら、新鮮な野菜栽培について視察いたしました。まだまだ風評被害がある中、地道に販売に取り組んでいることを学びました。それと末廣酒造での酒蔵見学を行い、東北の美味しい酒を堪能いたしました。東山温泉では勉強会の後、全国の校友との親睦を深め、温泉を堪能いたしました。二日目には、会津の観光名所として、飯盛山白虎隊の悲劇の自刃の場所を巡り、戊辰戦争での会津の悲運な立場を目の当たりにしました。そのあと大内宿まで足を伸ばし、茅葺き屋根の風情ある情景を見学いたしました。生憎の雨交じりの天気でしたが、歴史情緒あふれる光景でした。そのあとに、藩校日新館をまわり、会津魂の根幹である「ならぬことはならぬものです」の精神に触れることができました。今回初めて福島を訪れてみて、見どころ満載でもっと時間をかけてゆっくり観光したいものだと痛感いたしました。猪苗代湖や野口英世生家などまだまだ行きたいところもありましたが、それは次回の楽しみにとっておきたいと思います。

今回想ったことは、復興という言葉自体風化されることなく、震災前までに観光客が戻るその日まで私たち日本国民全体で意識して被災地に思いを馳せることが肝要だと思います。今回2日間の行程でしたが、実際の東北を体験できたことは大変有意義だと考えます。自分の体験をできるだけたくさんの人に話して、東北へ一度出かけてみることを提案したいと思います。いろいろとお世話になりました福島県校友会の皆様をはじめお世話いただいた校友会事務局の皆さんにお礼を述べて今回のレポートとさせていただきます。本当に貴重な体験をどうもありがとうございました。